

オタクは異世界転生したら最強な定義について。

磊落のスッチ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

ボッチでオタクの羽島 康也が神の間違いで死んでしまい異世界転生するって話。文章下手くそワロタ

目次

王都へ	1
王都へ②	4

王都へ

AM 6時

「はあ。いいアニメ見つかんねえし、つまんねえな」カタカタ

AM 7時

「おっと、もうこんなじか、ん、か」ボタン（なんだ心臓が……やべ息が）ハアハア

「ん、んあ」

（まてまて。起きた瞬間に真っ白い空間とか何これ俺、shinda？）

「およ？ 起きたのか？」

「あ、ああ。てか、あんた誰だ、よ」

（まてまて、なんですかアあれは。金髪でサイドテール、素晴らしき童顔。あ、あれは、ブヒるぞ。ブビイ）

「なんだ？ 妾の顔になんかついてるのか？」

「いや、何でもないでござる」

「ござる？ まあいい。それより」

「？」

「すまんかった」

「大体は察しがつくが、何故こうなった？」

（多分あれだろ。間違えて殺しちゃった的なやつだろ）

「え、い、いや、あれだ。少し、ここが忙しくて」

「忙しいって……ここが？」

「うん。ちよつとアレがあれの状態で」

（おいいきなりヒ○キーになるな。はあ、俺ガ〇ル見てえ）

「起こったことは仕方ないさ。別にそれは、何も責めねえさ」

「う、うむ。本当に悪かった。だからお主の願いを聞いてやろうぞ」

（何でこいつ偉そうなの？）

でも、願いとやらは何にしようか。やっぱここは、『生き返らせても

らう』とか思ってるやついるんだろうな……。だがしかし！俺は、そんなにやわな人間じゃねえーんだよ。死んだら……。そう！転生だろ)

「じゃあ……。これは、願いではないが、異世界はあるか？」

「うむ。あるぞ」

(ビンゴ)

「じゃあ、異世界転生でお願い」

「了解じゃ。では、い「ちよつと待てよ」く。どうしたのじゃ？」

「まだ願いは、終わってねえよ」

「何を抜かしておる。もう願いは言っただろ」

「ああ確かに一つ目は、な」

「なら願いは、「ただお前は、ひとつだけと言ったか？」え？何を言っておる」

「まさかひとつだけとか無いよな。残り少なくとも70年以上生きれる命を、お前の間違えで水の泡にしたんだ。ひとつだけとケチくさいことは言われちゃ困る。この代償は、最低でも後、7つだ」

「うっ……。わ、分かった」

「じゃあ願いだ——つてのを頼む」

「待ってくれ。それは、チートすぎるじゃろ」

「『願い』だろ？叶えられないでそんなこと言うわけないよな」

「う、分かった」

(こいつちよろいな)

俺が頼んだ願いがこれだ

①万物の創造(あらゆるものを考えてつくりだす)

②存在を知っている能力の複製(これは、アニメの能力とかを一度に二つ使える)

③完全記憶能力(全ての事を記憶する)

④ステータスの倍増。及び経験値の自乗(これは、文字通り)

⑤大賢者(分からないことや自らの複製が作れるゲームのヘルプみたいなもの)

⑥相手の能力の略奪(これは、そのままの意味だ)

⑦完全偽装（イケメンになれたり美少女に慣れたり）

「これでいいのか？」

「ああ」

「じゃあ行くぞ？」

「おう、いつでもいいぜ」

「では、『我、全能神ゼウスは、汝、羽島 康也を異次元へと飛ばそうぞ』」

（ん？ 今こいつゼウスって言ったマジかよ！）

「世も末だな」

それを最後に俺は、異世界に転生した。

王都へ②

(いきなり草原なんだけどまいったな)

「あいつゼウスだったんだな」

「まあこんなこと言ってもあれだなさて、チートの確認するか」

「まずは、『創造エリユシデータ』」

「おっとっと」ガタン

「いきなり出てくるとは、だが成功だな次行くか」

『大賢者』

「はい、康也様」

「これからよろしくな」

(ずいぶん無機質な声だな)

「はい宜しくお願ひします」

(これで大賢者も成功だな)

「超電磁砲でも打って見るか近くに弾は？小石でいいや」

「よつと、『超電磁砲』」バシューン

「これも成功だな」

「次は、『完全偽装』」

(これは、考えただけでそれになるからな)

『創造 鏡』

「ん、ちゃんと変わってんな」

(ただ腹立たしいほどイケメンだがこれは、必要な時だけ使うとするか)

「これぐらいかな確認出来るのは、あとは、ステータスでも見ればいいのか。ん？最初からやれって？感覚掴まないとダメでしょ！って誰に言ってるんだ」

「大賢者」

「はい、何でしょうか」

「ステータスの見方ってどうするんだ」

「はい、二本指で上から下えスライドしたら見れます」

「なるほどありがとうございます」

(ほぼS〇〇じゃねえかあー！)

「まあやるか」ユビス

ステータス

羽島 康也 Lv. 1

HP 17 / 17

MP 20

攻撃 20

防御 25

素早さ 20

属性

炎 Lv. 1 雷 Lv. 1

スキル

万物の創造

存在を知っている能力の複製

完全偽装

完全記憶処理

大賢者

相手の能力の略奪

ステータスと、経験値の自乗

剣術 Lv. 1

装備

エリユシデータ

ジャージ

所持金

0コル

「うむチートだな」

「まあ確認終わったしこれからどうしようかなと思った瞬間敵さんと、遭遇かよあいつは、スライムっぽいなって危な！」ジュー

「ジュー？って地面溶けてる!?!大賢者!」

「はい」

「あのモンスターなんだ？」

「あのモンスターは、スライムです。初心者モンスターです。打撃等はやめといた方がいいです。」

「何でだ？」

「スライムの体内は、100%硫酸なので溶けるかと」

「スライム怖！ドラ○エでもひのきのぼうで倒せるよ！」

「やばいな打撃が効かないってことは、魔法か」

「しゃーないな『サンダーボルト』」

一つの雷の玉がスライムの方向に発射されスライムは、消滅した

「よし終わったー」

フリフリプルプル

(なんだあたまに違和感が)

「これは、Lv. が上がった時に出ます」

「なるほど。」ユビス

レベルが上がりました

羽島 康也 Lv. 2

HP 289 / 289

MP 400 / 400

攻撃 400

防御 625

素早さ 400

属性

炎 Lv. 1 雷 Lv. 2.

スキル

万物の創造

ステータスと経験値の自乗

完全記憶処理

完全偽装

相手の能力の奪略

大賢者

存在を知っている能力の複製

剣術 Lv. 1

装備

エリユシデータ

ジャージ

所持金

0コル

「これは、チート過ぎる。変えるか」

「創造スキル変更」

「ステータスと、経験値の自乗をステータス上昇+ α で経験値、属性、スキルの能力の自乗の場合スキルは、剣術等のものだけとする」

「これでいいか一応確認」ユビス

羽島 康也 Lv. 2

HP 288 / 289

MP 400 / 400

攻撃 400

防御 625

素早さ 400

属性

炎Lv. 1 雷Lv. 2

スキル

万物の創造

ステータス上昇+ α 属性、スキル、経験値の自乗

完全偽装

完全記憶処理

大賢者

存在を知っている能力の複製

相手の能力の略奪

剣術Lv. 1

装備

エリユシデータ

ジャージ

所持金

「オコル」

「これでいいか」

「大賢者これからどうすればいい？」

「とりあえず王都へ行けばよろしいかと」

「分かった」

「じゃ行くか！」